

平成30年度
学校等欠席者・感染症情報システム研修会

小学校における 活用事例

大阪市立明治小学校
指導養護教諭 中井 美紀

感染症情報システムの活用事例を発表させていただきます、大阪市立明治小学校、指導養護教諭の中井美紀です。よろしくお願いします。

私はこの感染症情報システムに4年前の2014年から参加しています。本日はこの4年間で、自分なりに工夫した点や気づいた点などをお話したいと思います。

■ 入力作業の実際



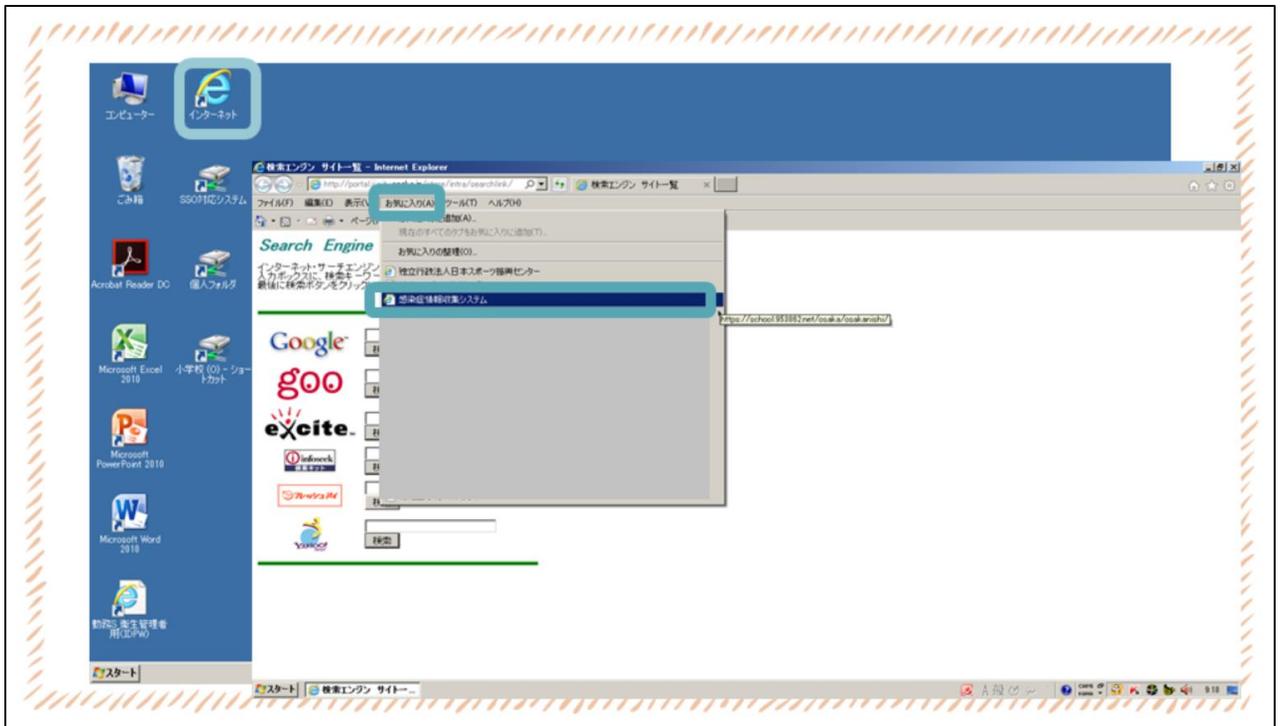
校務支援パソコン
1人1台
保健室に設置



先ほどシステム実習が行われましたが、実際、毎日どのように情報システムに情報を入力しているかをお話したいと思います。

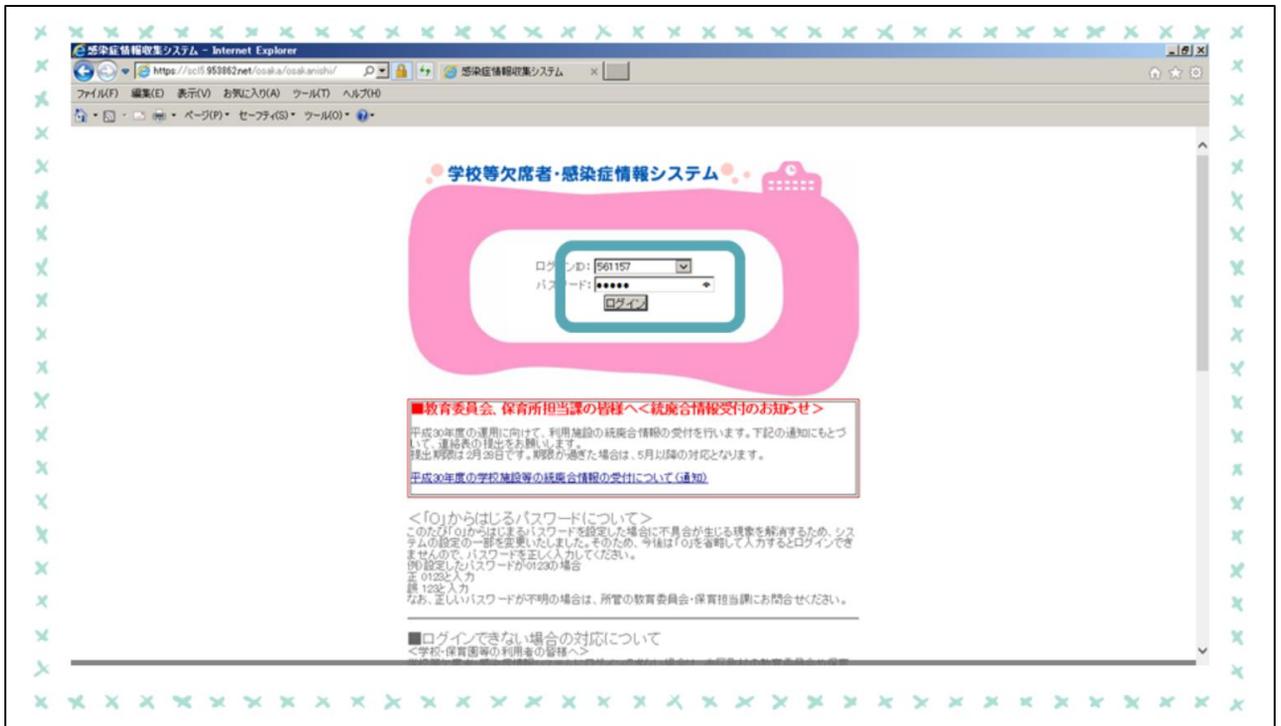
大阪市では校務支援パソコンが1人1台配布されています。私のパソコンは職員室ではなく保健室に設置。

一定のアクセス制限はありますが、インターネットにつながっています
このパソコンを使って感染症情報システムの作業を行っています



これはそのPCの画面です

いろいろな使い方があると思いますが、私はインターネットエクスプローラーを立ち上げ、ブックマークしているお気に入りから感染症情報システムのサイトにアクセスします



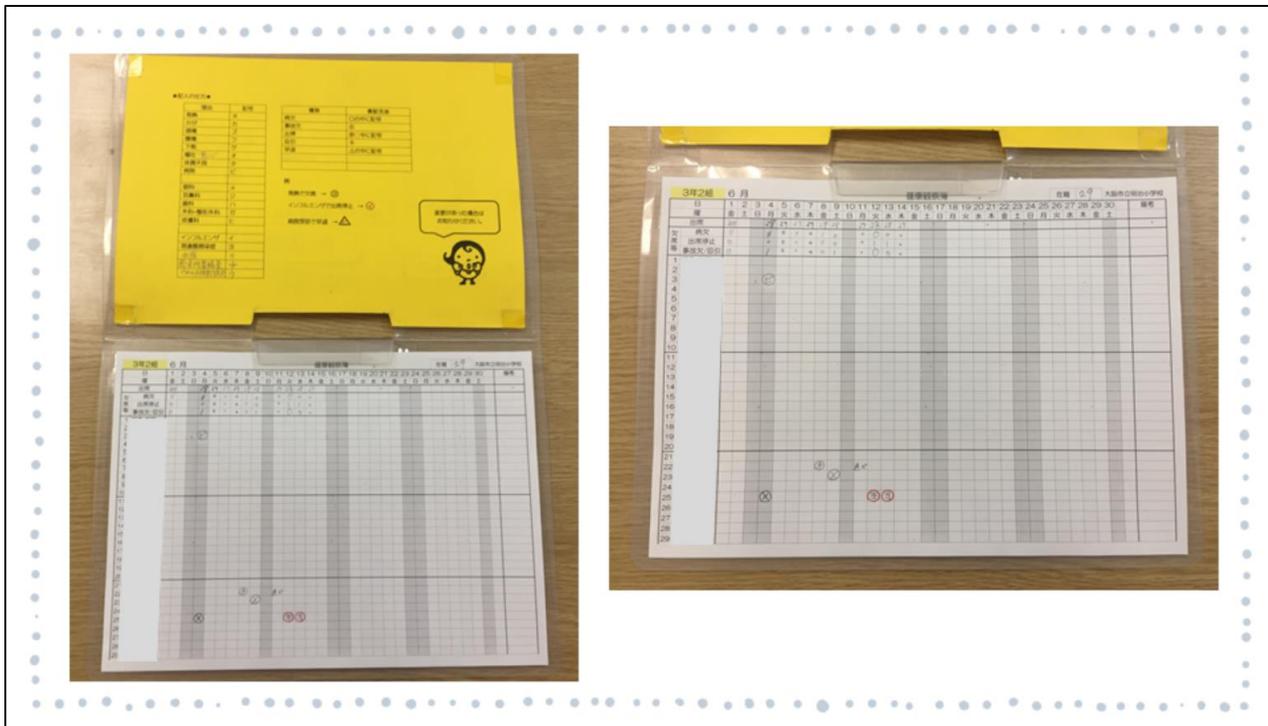
アクセスするとこの画面になります。教育委員会から配布されたURLが当校専用のものになっているようなので、常にログインIDは入力された状態で開かれます。パスワードを入力して、ログインすると

健康観察簿

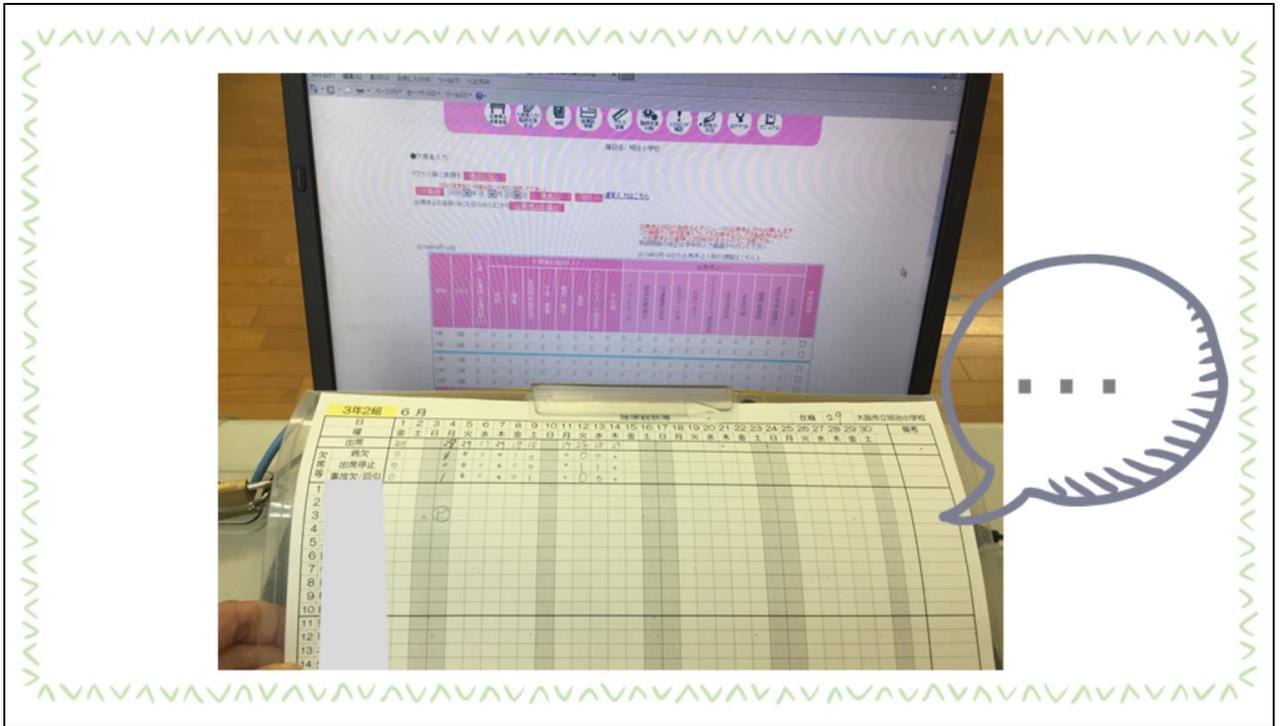
健康観察の結果を記録
学級から保健室へ



当校では各学級において朝の会で健康観察を実施、その情報を健康観察簿に記入し保健室へ、2時間目が始まる前に届けてもらっています。



開くと上部に記入例、下部に健康観察の記入欄があります。症状は記号で、欠席は○、出席停止は赤丸としています



各クラスから届いたこれらの情報を元に感染症情報システムに欠席情報を入力しようとするのですが、しかしこれがなかなか難しい！

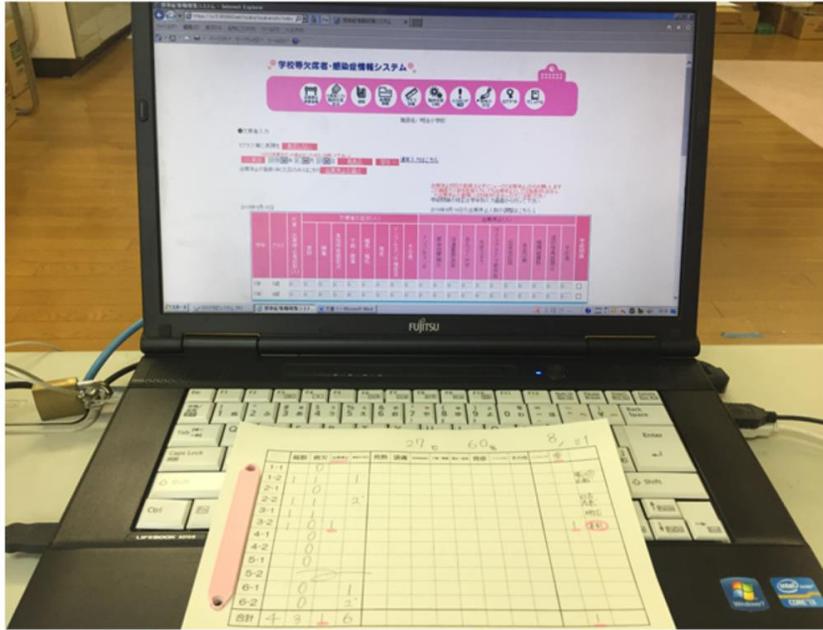
1つ1つ症状を探して数えながら入力するのは、とても時間がかかり、正確さにも欠けるように感じました

27℃ 60% 8/21

	総数	病欠	出席停止	発熱	頭痛	下痢・嘔吐	咳	発疹	その他	備
1-1		0								
1-2	1	1		1						倦怠感
2-1		0								
2-2	1	1		2		1				頭痛 腹痛 嘔吐
3-1	1	1				1				
3-2	1	0	1							1 発熱
4-1		0								
4-2		0								
5-1		0								
5-2		0								
6-1		0		1						
6-2		0		2						嘔吐
合計	4	3	1	6	1	2				1
分校										

そこで欠席情報の集約表を作成。項目を感染症情報システムの入力項目と合わせました。各クラスから届いた欠席情報を一度この用紙にまとめて、この表を基に情報を入力するようにしました。

実際はこのようになります。出席停止についてはマーカーで色付けをし、初日は丸で囲むようにしました。また2日以上病欠がある場合はこれが何日目の欠席かも記入しています。ちなみに黒い点は事故欠です。気温と湿度も記入しています。



集約表を見ながら感染症情報システムに入力。毎日のことなので短時間でミスなく入力ができるようになりました



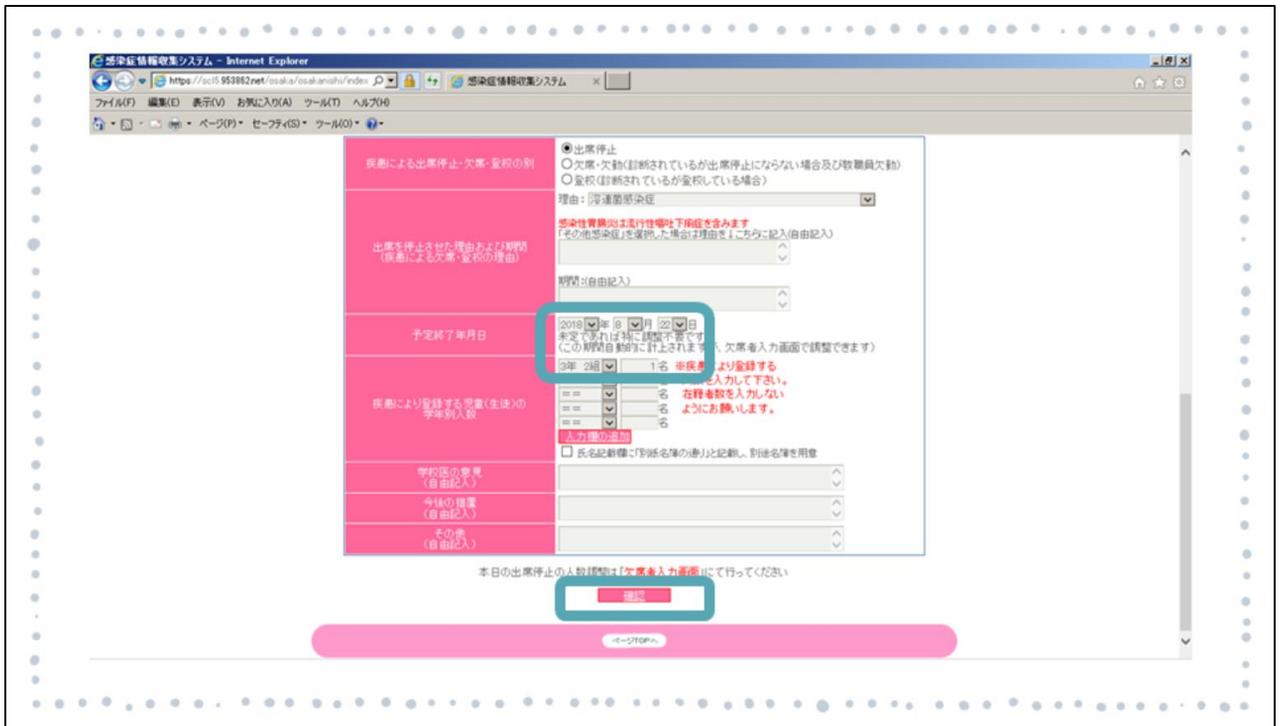
では実際に入力してみましよう。この日は溶連菌感染症があったので、先に「出席停止疾患登録」を行います



アクセスするとこの画面に。理由を押して



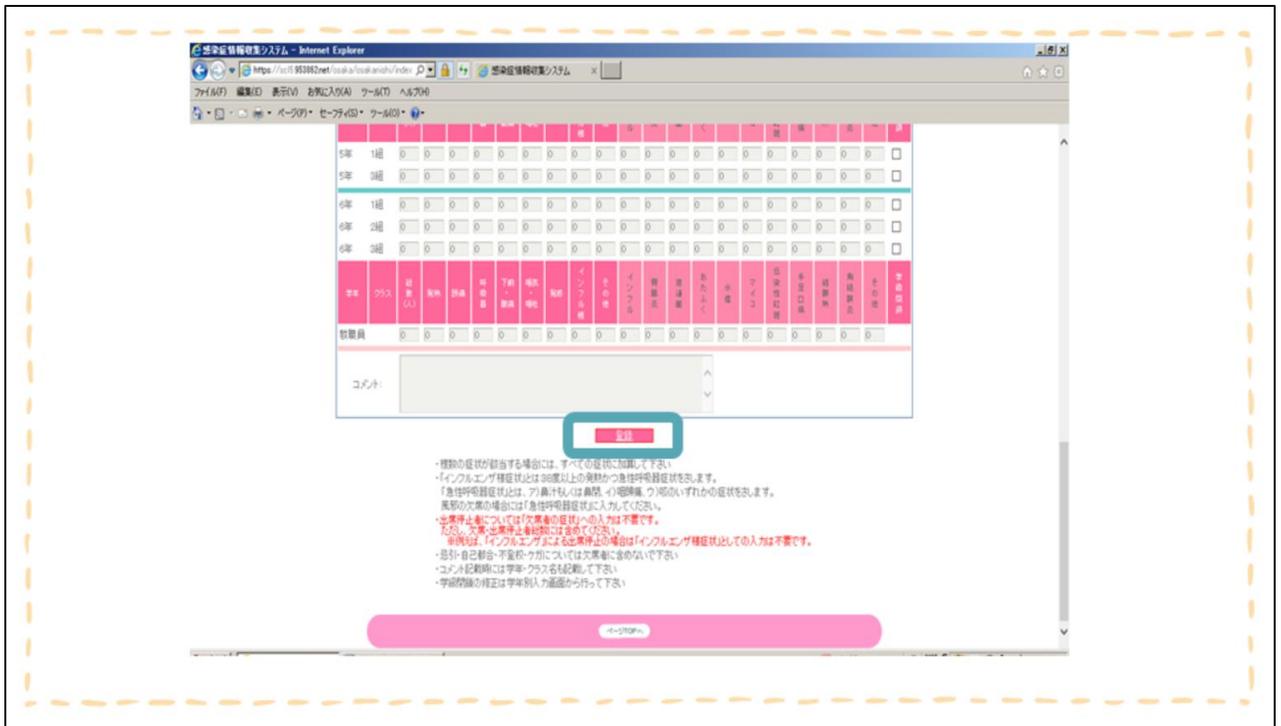
病名を選択



クラス、人数、期間を入力し、「確認」を押します



入力内容を確認し、間違いがないようなら「登録」



登録を押します



事故欠、忌引きなどについても同様に入力します



入力が終わると「参照」画面で、再度入力した情報に間違いがないかを確認します

学校等欠席者・感染症情報システム

施設名: 明治小学校

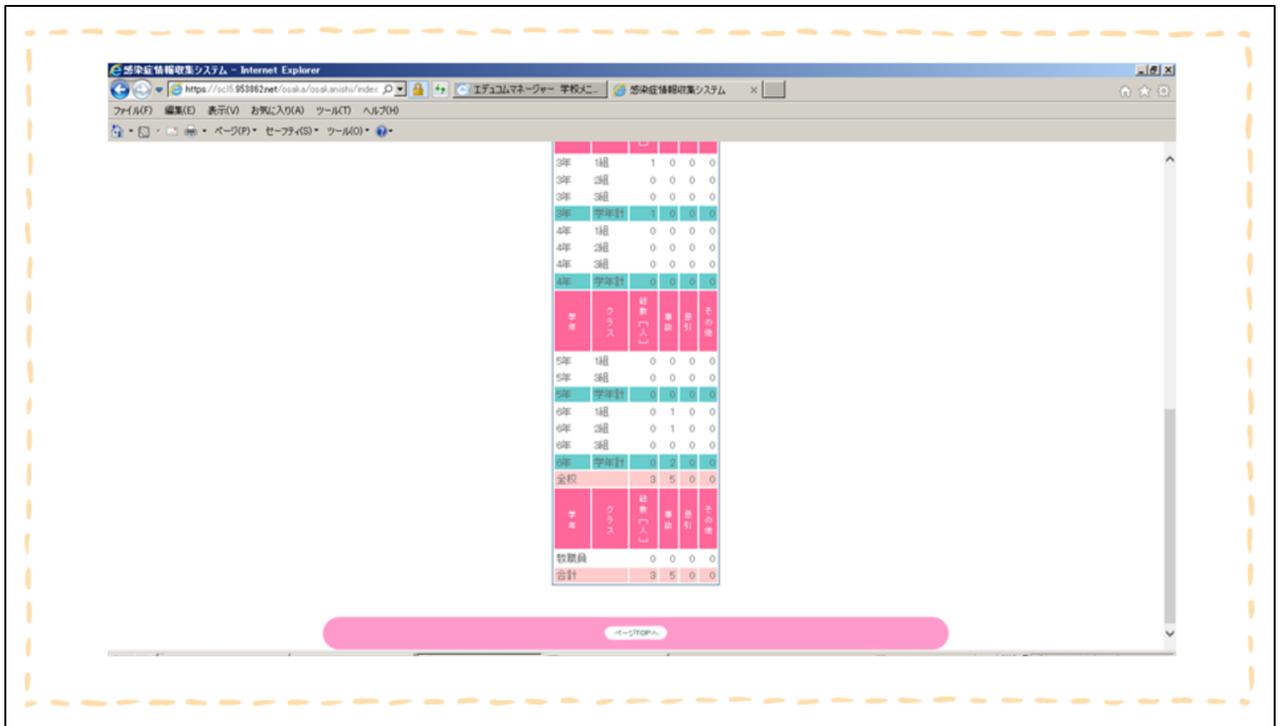
●事故欠息引参照

クラス番に検索を
表示しない

2018年 9月 21日

学年	クラス	欠席・出席停止者総数 (△)	事故	忌引き	その他
1年	1組	0	0	0	0
1年	2組	0	0	0	0
1年	学級計	0	0	0	0
2年	1組	1	0	0	0
2年	2組	0	1	0	0
2年	3組	0	0	0	0
2年	学級計	1	1	0	0

事故欠、忌引き他も同様です



毎日欠席情報を入力していく事で感じたのが、欠席情報のあやふやさです。発熱なのか、腹痛なのか、体調不良なのか...耳にした欠席情報と保健室に届いた欠席情報が違っていることがよくありました

欠席情報 正しく 簡単に

★連絡カード★		8/2	8:00	
3年組	本田	母/父・[]		
[]学校				
<input checked="" type="checkbox"/> 欠席	<input type="checkbox"/> 遅刻	<input type="checkbox"/> 連絡 します	<input type="checkbox"/> 連絡 ください	<input type="checkbox"/> 伝言
欠席・遅刻理由				
発熱 () ・ ぜんそく ・ 頭痛 腹痛下痢 ・ 嘔吐嘔気 ・ 発疹 ・ 体調不良 かぜ様症状 (せき ・ 咽頭痛 ・) 病院受診 () ・ けが ・ 事故欠 インフルエンザ A / B <input checked="" type="checkbox"/> 溶連菌感染症				
[Memo] 明日まで休みます。				
受信者 [中井]				

欠席情報は保護者から電話で学校に伝わることも多いのですが、誤った情報伝達を防ぐために欠席連絡カードを作成。欠席情報を正しく、簡単に共有できるように工夫をしました。

欠席情報に関心を持つ

- ・ 誰がどんな理由で
- ・ どんな症状で
どれくらいの人が
- ・ どの学年、クラスで



感染症情報システムに参加をし始めて、欠席情報にとっても関心を持つようになりました。誰がどんな理由で休んでいるか、何日休んでいるか
またどんな症状でどれくらいの人数が休んでいるか、それはどのクラス、どの学年か

欠席理由 = 来室理由

今流行している症状

保健室で児童に対応していく中で、頭痛での欠席が多い日は来室者の訴えも頭痛が多く、それがしばらく続きます。欠席理由と来室理由は共通していることに気づきました。すなわち、学校内の「流行」を感じるようになりました
このような傾向を学校全体で共有するため

職員室に欠席情報を掲示

★本日の欠席	
かぜ	1
下痢・腹痛	1
体調不良	1
溶連菌	1

★本日の欠席	
発熱	3
頭痛	1
その他	2
インフルエンザ	A 6 B 1
学級休業	1-2

インフルエンザの出席停止期間
発熱して5日間
かつ
解熱して2日間
は出席停止です。
★これをめやすに、登校再開は必ず医師の指示に従ってください。
*2012年4月現在、インフルエンザの流行状況により変更される場合があります。

欠席情報を職員室の前のホワイトボードに掲示するようにしました。保護者からの欠席連絡で「今何か流行っている病気はありますか？」と問われることがよくありますが、このホワイトボードの情報を元に、職員の誰でも答えることができるようにしています。

また、インフルエンザ流行期はインフルエンザの出席停止期間も合わせて掲示し、出席停止期間を保護者と確認するようにしています

■情報の活用<保健管理>



感染症情報システムでは区内や大阪全域の流行傾向を知ることができます
「地域の状況」を押してみましょ

両頬の発疹で来室

発熱はなし

水ぼうそう区内で報告あり

予防接種歴 2回

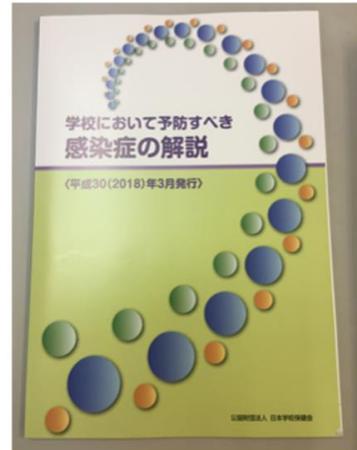
既往歴あり

帰宅後皮膚科受診予定

マスク着用

外遊びなし

給食は向き合わないで全員前を向いて食べる



先ほど頬に赤いブツブツがあると来室した児童を思い出しました
念のため検温しましたが発熱はなく、教室で様子観察をしてもらっていました
気になったので平成30年3月日本学校保健会発行「学校において予防すべき感染症の解説」で水ぼうそうの項目を確認すると
「発疹は体と首あたりから顔面に生じやすく」とありました
すぐにその児童を保健室に呼び戻し、保護者に電話連絡
水ぼうそうの予防接種歴と既往歴を確認しました
予防接種は2回行っており、既往歴もある、帰宅後に皮膚科受診予定とのことでした
ので、マスクを着用してもらい、学級で給食は向き合わないで、全員前を向いて
食べるという対応をしてもらいました
翌日保護者から連絡があり、頬の発疹は草にかぶれたもので水ぼうそうではない、
とのことで安心しました

目の充血

起床時の様子

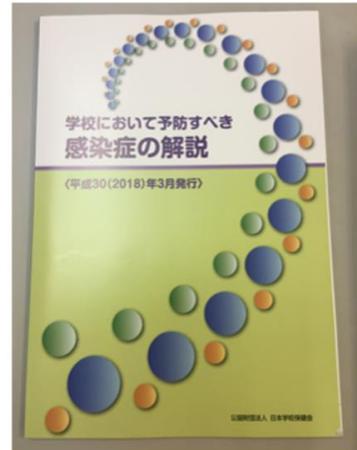
かゆみ、めやに、涙の有無

流行性角結膜炎区内で報告あり

保護者連絡

すぐに眼科受診

アルコール消毒



また、目が赤い、かゆいで来室があった時は、区内の流行性角結膜炎の報告数やエリアを確認します

近隣校で報告があり、めやに、涙の有無など、症状をしっかりと観察し、緊急を要すると考えられた場合は保護者に連絡。

すぐに眼科医を受診してもらいました

今年度既に1件、流行性角結膜炎の診断がありました

流行に気づく 感染症拡大防止を意識

インフルエンザ

流行に気づく事で、感染症の拡大防止をより意識するようになりました
特にインフルエンザの流行期は様々な方法を取ります

学校HPで情報提供・注意喚起



感染症情報システムで区内の流行傾向を調べ、学校のHPでも情報提供、注意喚起を行います。

昨年度も様々な策を講じましたが、インフルエンザによる学級休業を避けることはできませんでした

■ システムの活用

学校園—大阪市教育委員会

- ・ 出席停止報告
- ・ 学級休業

迅速な対応

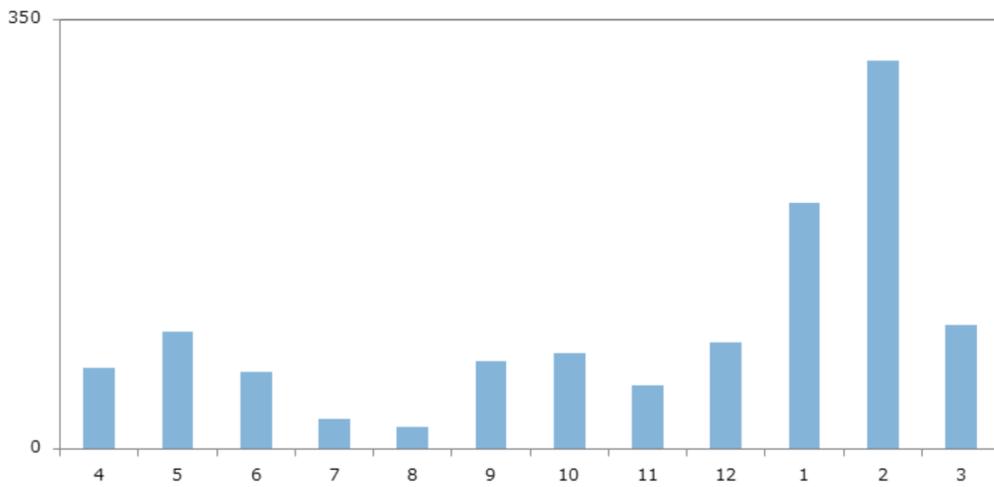
事務作業の軽減

大阪市では毎月紙ベースで出席停止報告を行っていましたが、近年はこの感染症情報システムに情報を入力することで報告とみなされるようになり、事務作業の軽減となりました。また、学級休業に関する事務手続きもすべてこのシステムで行うことができ、学校として大きな事務作業の軽減となり感染症に対して迅速な対応ができるようになりました。

年	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	
1	報告年	報告月	報告日	学年	クラス	欠席・出席	欠席	出席	熱	頭痛	急性呼吸器下病	皮膚	嘔吐	発疹	インフル	その他	出席停止	出席停止	出席停止
2	2018	4	9.1年	1組		0													
3	2018	4	9.1年	2組		0													
4	2018	4	9.2年	1組		1											1		
5	2018	4	9.2年	2組		1		1											
6	2018	4	9.2年	3組		0													
7	2018	4	9.3年	1組		0													
8	2018	4	9.3年	2組		0													
9	2018	4	9.3年	3組		0													
10	2018	4	9.4年	1組		0													
11	2018	4	9.4年	2組		0													
12	2018	4	9.4年	3組		0													
13	2018	4	9.5年	1組		1													
14	2018	4	9.5年	2組		0													
15	2018	4	9.6年	1組		0													
16	2018	4	9.6年	2組		0													
17	2018	4	9.6年	3組		0													
18	2018	4	10.1年	1組		0													
19	2018	4	10.1年	2組		1													
20	2018	4	10.2年	1組		2													
21	2018	4	10.2年	2組		1		1											
22	2018	4	10.2年	3組		0													
23	2018	4	10.3年	1組		0													
24	2018	4	10.3年	2組		0													
25	2018	4	10.3年	3組		0													
26	2018	4	10.4年	1組		0													
27	2018	4	10.4年	2組		0													
28	2018	4	10.4年	3組		0													
29	2018	4	10.5年	1組		0													

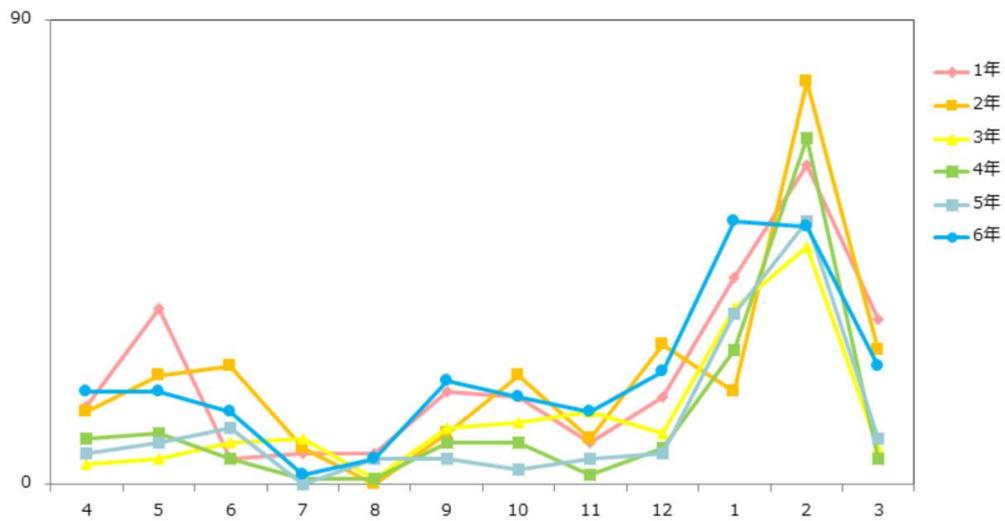
このようなデータがダウンロードできます
 これは当校の昨年度、1年分のデータです。このデータを使って昨年度の当校の欠席・出席停止の様子をまとめましたので、ご覧ください

2017年度 欠席・出席停止数



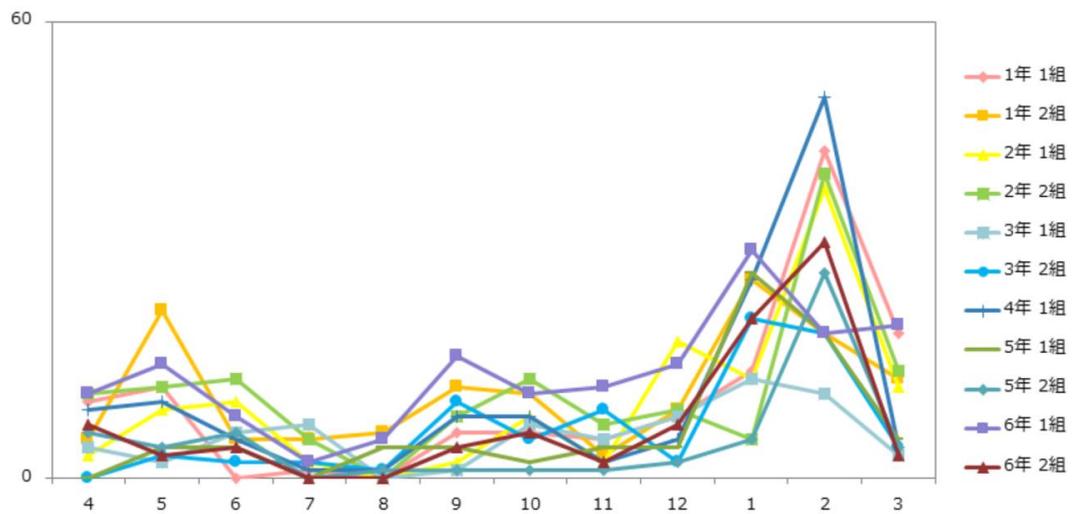
昨年度の学校全体の欠席・出席停止数です。1月から2月にかけて増加しています。

2017年度 欠席・出席停止数（学年別）



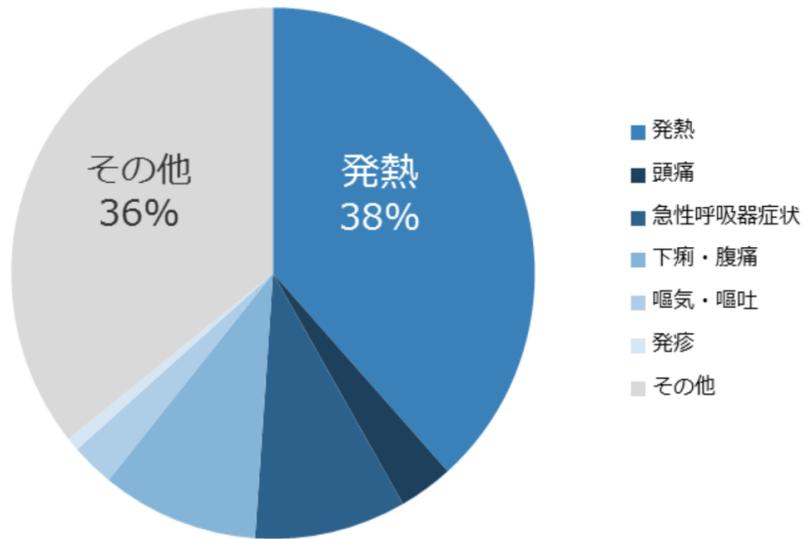
こちらは学年別の数です。どの学年も似た推移を示しています

2017年度 欠席・出席停止数（学級別）



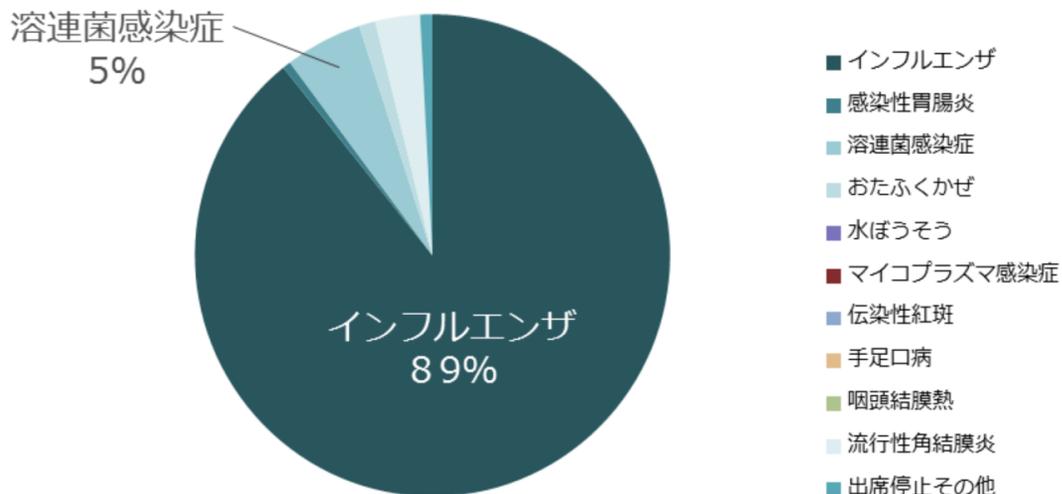
これは学級別です。1月にピークを迎えたクラスと、2月に迎えたクラスがあります。

2017年度 欠席症状の内訳



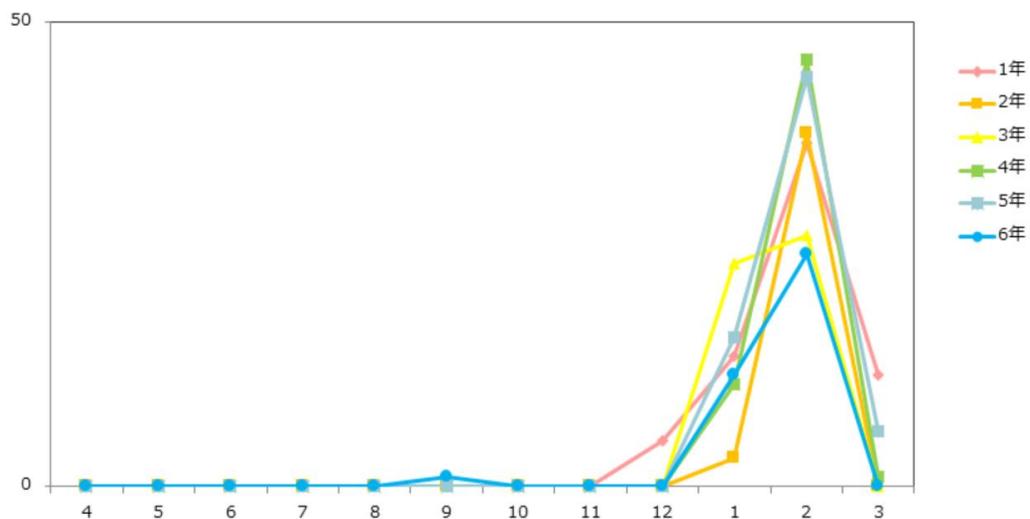
これは昨年度の欠席症状の内訳です。1/3が発熱、1/3がその他、残りの1/3が頭痛、腹痛、嘔吐、発疹などの症状です。その他とは主に体調不良です。

2017年度 出席停止理由の内訳



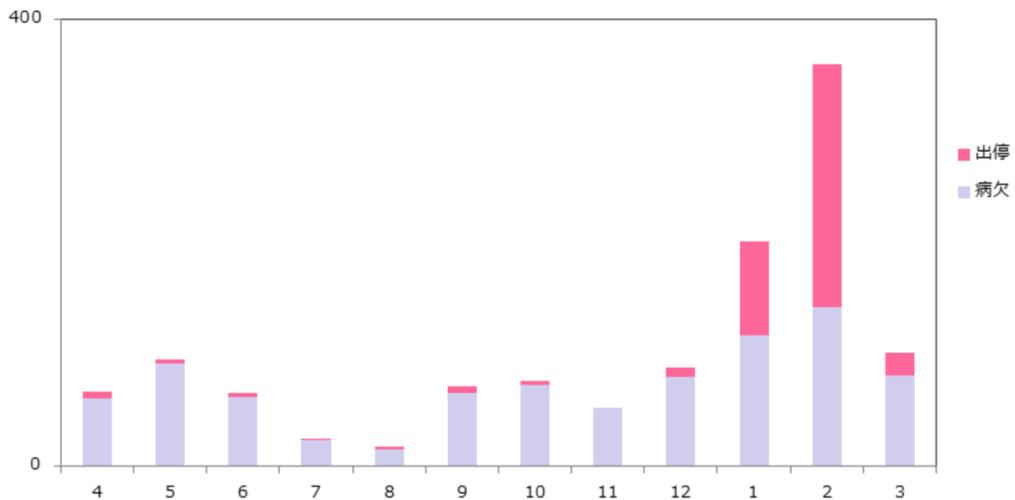
これは出席停止理由の内訳です。9割がインフルエンザです。次に多いのが溶連菌感染症でした

2017年度 インフルエンザによる出席停止数（学年別）



学年別のインフルエンザによる出席停止の推移です。昨年度、当校では1月から流行が始まりました

2017年度 欠席・出席停止数

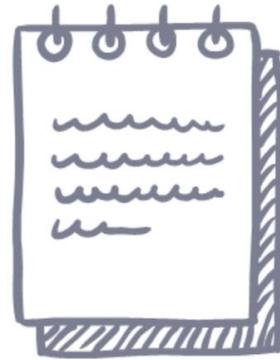


昨年度の学校全体の出席・出席停止数の内訳です。各月の授業実施日数を考慮すると、年間を通じて病欠数には大きな変化は見られないように思います。しかし、出席停止の数は1月、2月に増加。そしてその約9割はインフルエンザです。

欠席・出席停止は学習機会の大きな損失です。学校として欠席・出席停止数を減らすということは、インフルエンザの感染をいかに抑えるかにかかっていると考えられます。

資料

- ・ 保健のまとめ
- ・ 学校保健委員会
- ・ 児童（生徒）会活動
- ・ 関連教科「保健科」
- ・ 個別・日常指導
- ・ ほけんだより
- ・ 学校HP
- ・ 学校評議会

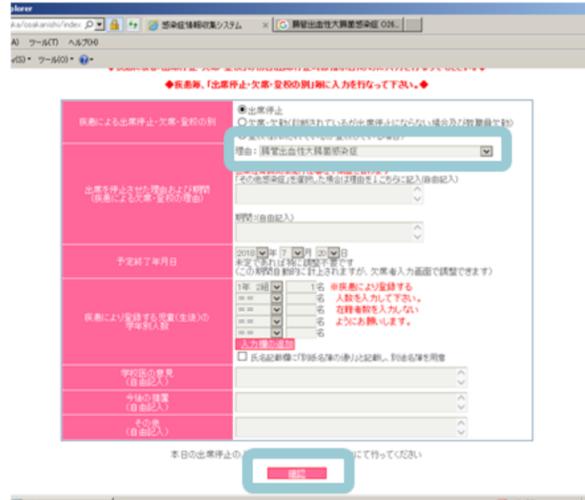


感染症情報システムからダウンロードしたデータを使用してこのような資料が作成でき、それは年間の保健のまとめ、学校保健委員会、児童生徒会活動、保健科の学習、個別・日常指導、ほけんだより、学校HP、学校評価の資料として使うことができます

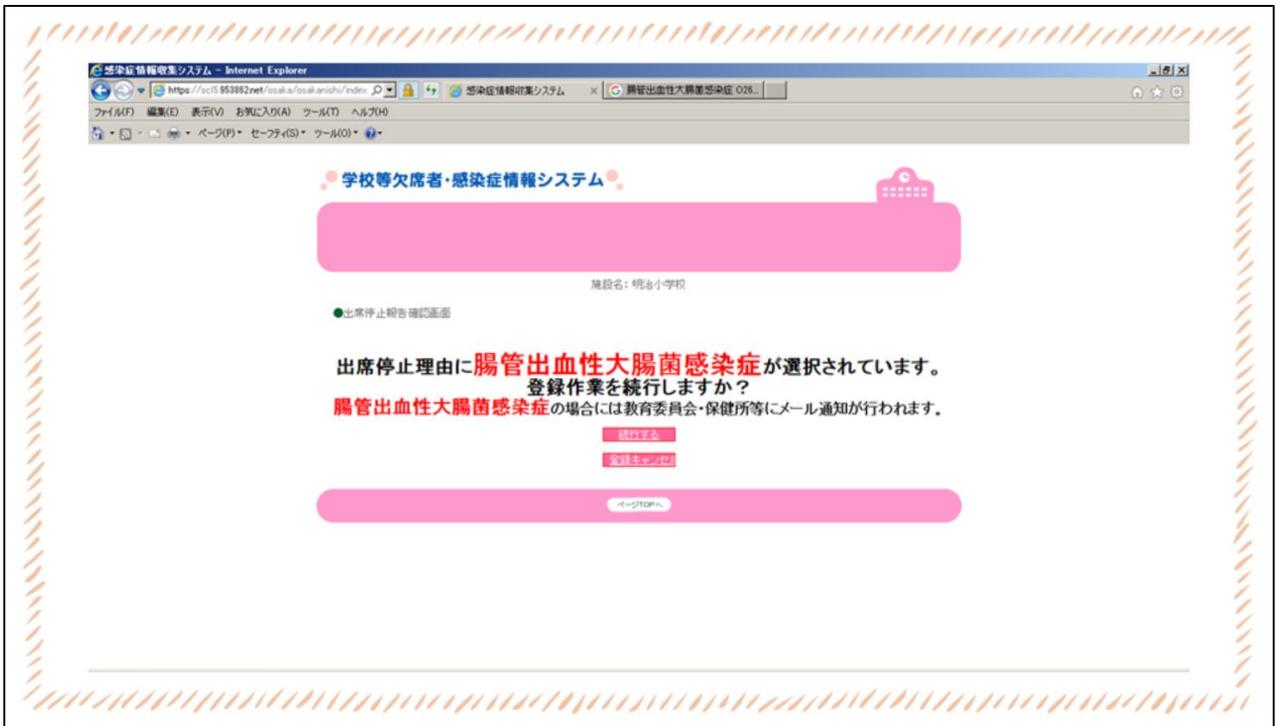
026

腹痛で1週間欠席
保健センターから連絡
トイレ消毒
児童の健康観察
受診勧告

調べると
腸管出血性大腸菌感染症



先日、1週間腹痛で欠席している児童がいたのですが、保健所から「026です。トイレを消毒して、児童の健康状態を確認して、同様の症状がある場合は病院受診を勧めてください」と連絡がありました。幸い学校内感染は見られませんでした。感染症情報システムの入力作業をすると



こんな画面が出てびっくりしました。保健所から連絡があった確実な情報なので、「続行する」を選択しました。その後気になったので念のために教育委員会に電話をして、学校名を告げ、要件を何と言え言いかと躊躇していると「感染症情報システムですか？」と教育委員会の方からおっしゃっていただけました。本当にすぐに連絡があるんだなとまたまた驚きました。すごいシステムですね！学校がとても守られているなと感じました

感染症情報システム 欠席に関心を持つ 感染症拡大防止



使いやすいように各々工夫が必要

おわり
ありがとうございました

感染症情報システムに参加することによって、欠席に関心を持つようになり、そしてそれは感染症の拡大防止につながると考えられます。
しかし、毎日の作業なので使いやすいように各々工夫が必要であると考えます
以上で感染症情報システム活用事例の報告を終わります。
ご清聴、ありがとうございました